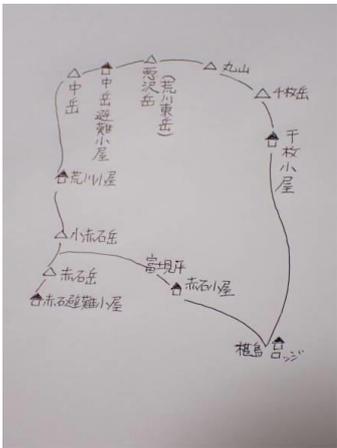


7月24日～ 南アルプス 荒川三山・赤石岳縦走 平尾 繁和

山名	南アルプス 荒川三山・赤石岳縦走	山行名	個人山行
ルート	榎島～千枚岳～荒川三山～小赤石岳～赤石岳～榎島		
山行日	2022年7月24日(日)～28日(金)	天候	①晴れ、②曇り、③曇りのち一時雷雨、④晴れ
参加者	森本、平尾		

ルート概略図 	コースタイム				
	地名	時：分	地名	時：分	
榎島	着	16：10	荒川小屋	着	12：10
	発	6：00		発	5：40
千枚小屋	着	12：55	小赤石岳	着	7：53
	発	5：30		発	7：55
千枚岳	着	6：18	赤石岳	着	8：35
	発	6：30		発	9：45
荒川東岳	着	8：12	富士見平	着	11：55
	発	8：35		発	12：00
荒川中岳	着	10：15	赤石小屋	着	12：25
	発	10：18		発	5：52
荒川前岳	着	10：30	榎島	着	9：35
	発	10：35		発	10：30

1日目：新東名高速の島田金谷ICから、川根本町、井川と大井川鉄道の沿線にそって北上、夏季臨時駐車場へ。特種東海フォレストの送迎バス(山小屋利用者は無料)を事前予約、林道を1時間余で榎島ロッジにつく。**2日目**：この日は予報でも天気が安定していたので、とにかく千枚小屋まで行こうとスタート。滝見橋からヤママップでルートが2つ書かれているが、左に行くルートは崖の山腹道に崩落が見えた。橋をまっすぐすすみ、吊り橋を渡って対岸から急登にとりつく。樹林帯の中の標高差約1,500mをゆっくり登っていく。清水平の水場や蕨段を過ぎ、シラビソを主体にコメツガ、トウヒなどの針葉樹にダケカンバが混じる樹林帯で展望はほとんどない。明治時代に皆伐された林や、木馬道をたどりながら駒鳥池を過ぎると間もなく千枚小屋についた。小屋の正面に富士山が見えたがすぐに雲がかかり見えなくなった。**3日目**：午前中は雨がなさそうなので、4時30分の朝食後出発。千枚岳の岩場を下り丸山へ向かう。荒川三山や赤石岳の姿が見えるが時折ガスが上がってきて隠す。丸山から大きなガレ場を越えてついた荒川岳山頂、青空が出たり隠れたり。最大の難所といわれるキレットを降り、中岳避難小屋へ。中岳を経て、分岐にザックをおいて荒川前岳を往復する。分岐から荒川小屋を目指し下っていく。途中フェンスに扉があり、中は南アルプス最大級と言われる荒川のお花畑。堪能して荒川小屋に向かう。**4日目**：樹林の中を上り山腹を巻く道に出る。左に赤石岳の雄大な稜線が広がる。奥には富士山の姿もはっきり見えた。大聖寺平を過ぎてから雨が降り出す。途中一時激しくなったが小赤石岳につく頃には止んだ。赤石岳へひと登り、赤石避難小屋でゆっくり過ごす。下山にかかる頃は一面ガスに包まれ、入道雲の底に入ったと思った。分岐から斜面を下り出すと、途中から雷が鳴りだし時々身を伏せながら先に進む。ハイマツ帯から樹林帯に入り一安心。登り返して富士見平、荒川三山は見えるが富士山は見えぬ。赤石小屋に泊まる。**5日目**：標高差約1,400mを下る。本には最後はモーレツな急坂との記載。前日赤石岳で滑落があり救助されたとの情報があり、慎重に行く。9時35分榎島ロッジに無事到着。

ヒヤリハット なし

荒川三山・赤石岳縦走 感想文

森本 竜二

荒川三山（東岳・中岳・前岳）の頂に立ったのは、京都を出発して3日目。やはり奥深い。日本6位の標高の東岳（3141m）は悪沢岳と呼ばれており、翌日（4日目）登頂の赤石岳（3121m標高7位）は共に100名山に選ばれている。5日目の午前に樫島に下山、予定通りに帰京できた。

○「宿泊地」と登った山

「樫島」→「千枚小屋」→千枚岳（2880m）、丸山（3032m）、荒川東岳（3141m）、中岳（3083m）、前岳（3068m）→「荒川小屋」→小赤石岳（3081m）、赤石岳（3121m）→「赤石小屋」→樫島へ下山



千枚小屋から見えた初富士山
2日目 7/25（月）12：56



荒川小屋を少し登ったところ
4日目 7/27（水）06：02



赤石小屋展望台から
5日目 7/28（木）05：39



振り返り見た悪沢岳
3日目 7/26（火）09：27



左 悪沢岳から望む
中岳、前岳 7/26
08：38 右 赤石小
屋から朝日を浴びた
小赤石岳と左肩に見
える赤石岳 7/28
04：53



平尾 繁和

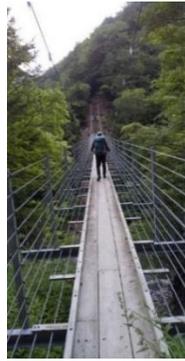
75歳までに登りたい体力のいる山に行こうと思い、山行アンケートにあげた。申込者は2名、参加者が増えなかったが、ようやく4名がそろい打合せを持った。しかし、やむなく2名がキャンセルとなった。森本さんに聞くと、1名でも行きたいという。天気予報を見てキャンセル料の発生するぎりぎりに個人山行として実施を決定した。エスケープルートがなく1日の予備日をもうけ停滞も覚悟していたが、天候不順なか予定通りに山行ができ幸いだった。1日目：「オクシズ」（奥静岡）と呼

ばれる大井川上流域へ。途中狭い落石の散らばる道をとおり（小屋の同宿者は落石で車がパンク）臨時駐車場へ。かれこれ100台以上の車が止まっていた。榎島まで送迎バスで全員車中ヘルメットをかぶり、がけ崩れでガードレールが埋まったりしている林道を走る。2日目：ヤマテンからの毎日16時の赤石岳の天気情報が頼り。過去の山友会の例会では、1回目は千枚小屋で撤退、2回目は当日朝電話が入り道路不通で中止、3度目で縦走がかなった山域。滝見橋の先の吊り橋は大きく揺れてヒヤヒヤだった。コースの急登から樹林帯に入る。時折大井川から吹き上がってくる風が天然のクーラとなりありがたかった。千枚小屋の周りのお花畑ではマルバダケブキ、ミヤマキンポウゲなどが咲いていた。水は小屋の外側の洗面場に蛇口があった。3日目：森林限界を越え稜線にでると高山植物がふえ紫に黄と色とりどりになってきた。千枚岳の展望の開けた山頂岩場にはチシマギキョウがたくさん見られた。後続の埼玉の2人の女性パーティから手前でライチョウの親子を見たとの情報。期待を込めて千枚岳の岩場を下り丸山へ向かう。丸山を下った先で母親と3羽の子のライチョウが見られた。大きなガレ場を越えてついた荒川岳山頂。岩陰にミヤマオダマキの花が一輪咲いていて、凜とした姿が印象的だった。中岳避難小屋手前ではクロユリが保護されていた。中岳をへて、荒川前岳を往復する。山頂に標柱があったが、山頂の位置がヤマツツと違くと周りでいい出し少し先の崖の突端まで行ってみる。上からのぞくと火口のような深い断崖が見られた。荒川小屋に向かい下る途中にフェンスが張ってあり扉を開けて入ると、そこは南アルプス最大級と言われる荒川のお花畑（前岳の植物園）。シカの食害でかなり高山植物がやられたと本で読んでいたので期待はしていなかったが、植生保護のため保全の活動がされてきたおかげでクロユリ、シナノキンバイ、ハクサンイチゲはじめ斜面にたくさんの花々を見ることができた。ホシガラス、イワヒバリの姿も見られた。下って樹林帯のなかの荒川小屋につく。ここの水場は小屋から3分とあるテント場の先であり、この時は水量があった。4日目：朝前方に富士山が見えた。山腹のトラバース道は、左手に赤石岳の山塊を眺め、奥には富士山も顔を見せ広々としたところで気持ちよかった。大聖寺平から小赤石岳をへて稜線の縦走で赤石岳がぐんぐん迫ってくる。振り向けば雪渓などが見える。赤石岳に登頂、同宿のパーティに声を掛けられ赤石岳避難小屋を訪れる。管理人さんが有名だという。山小屋くらしのエピソードを面白く話してくれた。管理人のおじさんがとっておきの写真3枚を見せてくれ、千恵子？さんはハーモニカの演奏を聞かせてくれた。とりわけ2台のハーモニカで演奏してくれた「コンドルは飛んでいく」は、心に響いた。気が付くと1時間以上ゆっくりしていた。分岐から斜面を下り出すと雨が降り雷鳴がした。ハシゴもある急下降の歩きにくい道もあった。小屋へ下山途中で山岳カメラマンの中島健郎さん（BSでヒマラヤ等の山岳撮影が放映）一行と出会い、写真に納まる。赤石小屋では玄関前に飲料水タンクが置かれていた。同一コース・同小屋泊をとった埼玉、静岡、奈良の3パーティと小屋でゆっくり懇談できた。（電波状況は榎島、千枚小屋はドコモで通じたが荒川小屋は少し悪く、赤石小屋はまったく通じなかった。）

5日目：小屋から約10分の三角点で富士山をみてから下山にかかる。標高差1,400mを下り無事榎島ロッジに到着。長い縦走の旅が終わった。予約しておいた送迎バスの時間変更がかない2時間30分早く帰途につくことができ、途中の白樺温泉で汗を流した。5日間一緒に歩き、くらし、いいペースで先導してもらった森本さんに大感謝。奥深い山域だが、山塊が雄大で展望と豊かな自然、花に恵まれた山行を楽しめた。



樺島ロッジをスタート



吊り橋



ミズナラの巨木



シラビソの林



駒鳥池



千枚小屋



千枚岳から丸山へ



悪沢岳（東岳）



中岳



荒川のお花畑（前岳の高山植物園）



赤石岳山頂



楽しい思い出 赤石避難小屋



出会い（中島健郎氏）



赤石小屋



赤石岳



聖岳 朝から「かなとこ雲」が



ミヤマクロユリ



ハクサンチドリ



トリカブト s p



チシマギキョウ



ミヤマオダマキ



タカネゲンナイフウロ



タカネネデシコ



ハクサンフウロ



イワオトギリ



タカネコウリンカ



ミヤマキンバイ



タカネニガナ



イワベンケイ



シナノキンバイ



タカネヤハズハハコ



ミネウスユキソウ



コバノゴモグサ



イワオウギ



シロバナタカネピランジ



イブキトラノオ



チングルマとコイワカガミ



イチヤクソウ



エゾシオガマ



バイケイソウ



ミヤマシシウド



タカネツメクサ



ゴゼンタチバナ



ハクサンイチゲ